



THE Y'S MEN'S CLUB OF KYOTO PALACE

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MENS CLUBS
"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

8/24号外

2022

復刻版

Bulletin

京都パレス・ラオスプロジェクト「大野さんが行く！」2022年7月ラオス訪問記

京都パレスクラブ50周年記念事業「ラオスにYMCA国際ホテル専門学校を設立するプロジェクト」で、在京都ラオス人民民主共和国名誉領事の大野嘉宏ワイズがラオス現地に飛び、様々な有力者や関係者との面談等、奮闘努力して頂いている様子をお知らせします。以下の文章は大野ワイズ本人が現地からLINEを利用して送信されたものです。臨場感あふれるメッセージをご一読下さい。

2022.07.03 日曜日

二年余りの空白を乗り越え、悲願のLaos入国！
東京YMCA国際ホテル専門学校の小畑校長と一緒にです。
現地ではワイズメンズクラブ元国際書記長の西村ワイズとも合流しました。

さて、到着した日の夜、4月まで京大の留学生だったアミットが、立命館大学の留学生だったアンさんを連れてきてくれました。このアンさんが只者ではなかったのですが、それはまた後程。



2022.07.04 月曜日

今日は朝イチに計画投資省副大臣ほか政府関係者と面談、昼飯は小林日本大使の招待にて日本大使公邸に行きます。その後はJICA所長、夜は前日本ラオス大使ご家族からの招待を受けます。大使館からの招待状がホテルに届いてました。



午前中の計画投資省の女性副大臣との会談。地元テレビも入っています。何故YMCAのホテル学校がラオスに必要なのかを熱っぽく語りました。YMCAを変な宗教団体だという偏見はやめて欲しい…とまで話しました。結果、副大臣から「今ラオスにとって必要な事業だ、政府としても応援する！」との言葉を引き出せました。



続いて日本大使公邸での昼食会。ラオスの投資局長も同席で、先の会議の続きの話を交えて話しました。税制面でも優遇する等、友好的な話がありました。日本大使館も応援すると。

その後、JICA事務所に支援の要請に行きました。ラオス政府からの依頼があるならば、かなり出してくれそうな手応え。

ホント長ーい1日でした。
クタクタに疲れました。お休みなさい。

2022.07.05 火曜日

今日は学校用の不動産物件を見に行きます。
夜は前々ラオス大使、国会議員との食事会をやりませう。



PHOTO SCENES

Honorary Consul of the Lao PDR in Kyoto, Japan, Mr Yoshihiro Ohno, on Monday meets Deputy Minister of Planning and Investment Mrs Khamchan Vongsenboun to discuss future areas of cooperation, including the construction of the Tokyo YMCA Hotel school in Laos.



ビエンチャンタイムズにも載りました。ハッキリYMCAホテル学校と書かれています。

Google翻訳：ビエンチャンタイムズ
日本（京都）のラオス名誉領事の大野嘉宏氏は、月曜日に計画投資副大臣の Khamchan Vongsenboun 氏と会談し、ラオスでの東京YMCAホテル学校の建設を含む、将来の協力分野について協議されました。
※2022年7月5日付ラオス最大の新聞に掲載

そんな訳で僕も喜んでいたのですが、先程までの元日本のラオス大使で元国会議員の人と夕食時の話で暗転。初めは「そりゃラオスにとって良い事業や！！大賛成！」と言った実力者が「ところでYMCAって何の訳？」って聞くのでゆっくり説明して、YMCAの「C」まで話した

ところで顔色が変わりました。社会主義国にある偏見と難しさをまざまざと感じ、昨日の喜びが吹っ飛びました。それでも、これまでの友情で真意を言ってくれました。また、やり方のアドバイスをくれて誰と会うべきか等を教えてくれました。

2022.07.06 水曜日

引き続き、ハードな日程が続きます。皆んなの応援を糧にして頑張ります。今日はまた、日本外務省書記官達と作戦会議&食事会をやります。その他、日本大使館公邸で小林大使に昼食会を開いて貰いました。さらには、JETROやJICAの事務所訪問と忙しくしています。

昨日の元日本のラオス大使で国会議員だった方に会った話ですが、何故YMCAに偏見が有るのかを聞きました。ラオスの歴史で、キリスト教の布教の為にかなり酷いやり方をやったという事実が語り継がれており、政府で認可しない団体のリストにYMCAの名前もあるとのこと。今回、東京YMCA国際ホテル学校という名前で開設出来たら、歴史的な偉業になると思います。それをパレスがやろうとしているのです！

日本で仲良くしていた留学生たちも政府に入っているのです。彼ら若手は応援してくれています。しかしながら、やはり年輩の政治家達の偏見は根強く、厚い壁を感じざるを得ません。この10年でラオスで築いた人間関係に感謝しつつ、あと少し頑張ります！

2022.07.07 木曜日

小畑校長、西村ワイズ、共に頑張ってくれています。

日本語学校です。
彼らは日本で農業に従事します。



日本（京都大学）への留学生だったアミットも外務省に入りました。
アミットの両親、兄は私に会う為に数時間かけて田舎から出てきてくれて、明日、夕食に招待してくれます。感動です。

色々ラオス政府のことも書きましたが、でも、皆さんラオスを決して嫌いにならないで下さい。優しく、親切な国民性、長くフランスに支配され、教育もままならなかった植民地時代があります。経済発展が立ち遅れ、アジアの最貧国と言われて久しい国です。

さらに、参戦すらしていないベトナム戦争で、ベトコンのルートがあるという理由から、アメリカから数千万発という爆弾、それも今では禁止されているクラスター爆弾で農民や子供達がどれだけ命を失い、手足をもぎ取られたことか。その悲劇の爪痕は今も残っています。

その話を聞いた時、数年前に大阪のアメリカ総領事館から要請されて出向き、ラオスとの関係改善について苦慮しているとの由で、どうすべきかアドバイスを求められた事を思い出しました。

戦後、ラオスに残る不発弾の処理をアメリカはやらず、日本が中心となって、カナダ等、他国の協力も得て実施してきました。最近になってアメリカも不発弾処理をやり出しましたが、アメリカへの怨みは政府に染み付いているのです。もっとも、最近の若い人は変わってきているのですが…。

その様な背景があって、アメリカで発展したYMCAを認可しないのです。ボーイスカウト、ロータリークラブなども、不認可リストにあります。今回「東京YMCA国際ホテル学校」という固有名詞にして、単なるYMCAと違うとしたのは、そうした理由からです。

国土が美しく、人口の少ない、しかも海に面してない、輸出もままならないラオスにおいては、観光事業こそがラオスの経済の核になると政府に訴え続けています。

また、卒業生に対しては日本のホテル業界にいる多くの先輩が、就職の約束をしてくれます。外貨獲得に寄与することは間違いない。日本のホテル業界にとっても、優しいラオスのホテルマンが役立つことでしょう。そうした話を訴えていく他ありません。



このカッコいい青年、実は前ラオス駐日大使の息子さんと、大使が離日される時、日本語も下手だった息子を私に託されました。

私はYMCA日本語学校に頼んで、半額は私達領事が学費を出して卒業させ、続いて同じ方法でさらに2年間東京YMCA国際ホテル専門学校で学んで貰いました。一年目は学費約100万の半分を出して、二年目はYMCAホテル学校の特例で免除してもらいました。

そして、この度この生徒ジョジョ君が、なんと東京インターコンチネンタルホテルとフォーシーズンズホテル東京大手町の二つに就職内定しました。ラオス人初のホテルマンです。3日前、彼の親、姉妹、親戚から晩御飯の招待受け、大変な感謝の言葉、接遇を受けました。こうしたドラマを、これからも創っていくのかパレスの事業です！



パレスの例会に、ラオスから京大大学院に来てるアミットとという学生、ゲストスピーカーに呼んだのを覚えてると思います。関西ラオス留学生会の会長もしてくれて、何かと役に立ってくれた留学生です。この春、見事に博士号修得しビエンチャンに帰り、ラオス外務省の試験を受けて105人の中から5人の合格者に入りました。しかも他の4人は政府高官の息子達で、一般市民の子弟で受かったのは彼一人です。



彼は2019年にアルバイトで貯めたお金で、両親と兄を京都に呼びました。彼の生まれた村から外国に行ったのは初めてらしいです。私のゲストルームに泊めてあげてパレスメンバーの店、丸福錦店にも連れていきました。

今回、私がラオスに来るといので、ビエンチャンから遙か離れた村から来てくれて、兄の家で親戚も集まって手料理でもてなしてくれました。「日本に来て何が美味しかったですか？」と聞いたら、何と丸福の鯖寿司でした。他の寿司屋にも連れていったのに！

何も丸福の宣伝がしたい訳ではありません（笑）。先日の計画投資省副大臣との会談をした話を書きましたが、その前日にアミットがアンさんという1人の女性を夕食に呼んでくれました。

彼女は関西ラオス友好協会が初めて「ラオス正月パーティ」を京都で開いた時に来ていた学生で、私を知っていると。そして、そのアンさんが今は計画投資省の中堅役人で許認可の窓口をやっているとのこと!!

私がYMCAの不認可団体リストの話聞かされて落ち込んでいるという話をすると、彼女は「この計画の手続きは、私がきちんとやってみせる!」と言ってきて、嬉しいやらビックリするやらで、奇跡が起こったと思いました。

とはいえ、アンさんは計画投資省の窓口担当であり、申請の書類に不備が無いかを見てくれて、許認可を担当する省に繋いでくれる範囲しか出来ません。まだまだ道のりは遠いです。でも、政府の中に味方がいるのは、どれだけ心強いのか。



京都での正月パーティ時の集合写真
この中にアンさんが居たのです。

2022.07.09 土曜日

今夜の便で帰国します。色々ご心配をおかけしました。本当に一喜一憂の毎日でした。

YMCAが何故認可されないかの理由もわかってきました。当初、仏教国で社会主義国だから基督教の団体を嫌うのだと思いこんでいました。でもそこにはラオスの可哀相な事情もあった事が分かりました。勿論、何処かの国が酷い方法で基督教の布教をした事を年寄りの政治家は覚えていて嫌うというのも一つの理由ですが、最大の問題は先に書いたようにベトナム戦争です。クラスター爆弾による惨劇、今も残る不発弾処理。

その様な理由で、アメリカで発展した団体、ロータリー、ライオンズ、ボーイスカウト、そしてYMCAも不認可リストに入っているのです。最近、スタバが開店し、矛盾してるなどは思いますが、国の経済に役立つ商売には緩いらしいです。

その意味では、今回、東京YMCAホテル学校の名前で、国の経済に役立つ学校としてアピールするアイデアは我ながら正解の様です。戸惑いながらも、賛成してくれる人が多いのは「ホテル学校」という名前が効いています。まず学校、そして将来、この国がもっと発展したら本来のYMCAの活動に持って行けると思いますが、それに役立つ人間は、まさに留学生達です。ワイズも留学生を大切にするプログラムやりましょう!! 以上、ラオスからの最後の報告です。

2022.07.10 日曜日

関空まで帰ってきました。まあ、大きな話になりますよ。

無事帰国し、散髪とマッサージで休養しました。

明日はYMCAでパレス新入会員研修会、明後日からは札幌2日間と、ジジィらしからぬスケジュールこなせるのも、大きな目的を持たせてくれているお蔭とワイズに感謝しています。皆さんでワイズをもっと大きな組織にしましょう!